



はじめませんか

人生会議

ーこれから先、どんな人生を歩みたいですか？ー

人生会議

(ACP－アドバンス・ケア・プランニングー)

自分が望む医療やケアのことを前もって考え、話し合い、共有することが「人生会議」です。

人生の最期まで自分らしく生きるために、そして家族や大切な人が安心できるように、周囲の人たちと人生の最終段階の医療やケアについて話し合ってみませんか。



新座市エンディングノート

人生の最終段階の医療やケアのことを考えるヒントを掲載しています。人生会議の進め方の参考にしてください。

介護保険課・長寿はつらつ課・各高齢者相談センターで配布しています。

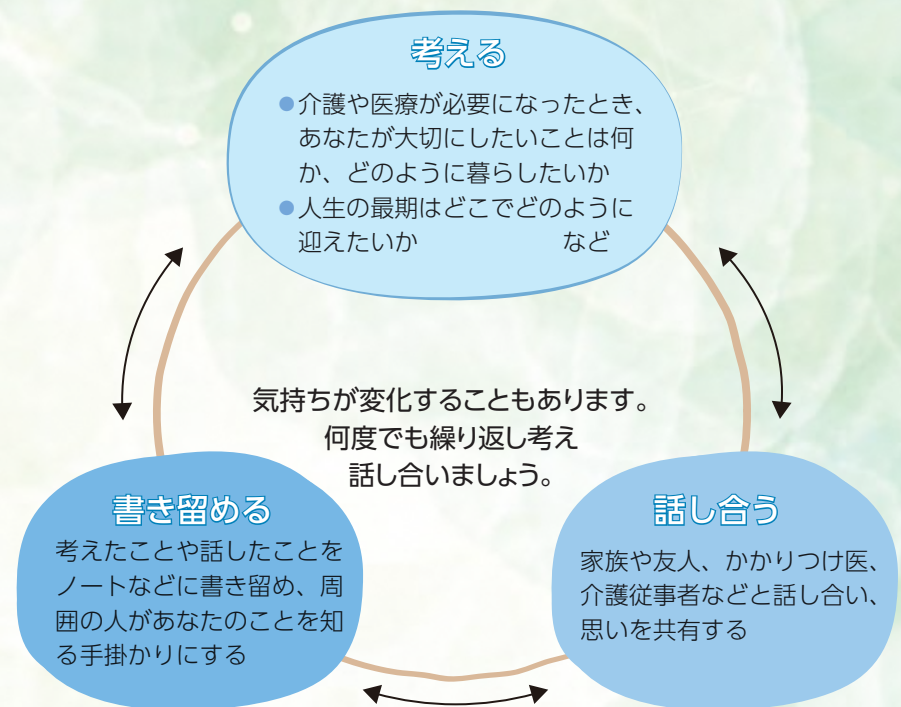
また、市ホームページからダウンロードできます。ぜひご利用ください。



◀ダウンロード
はこちら



■人生会議の進め方の例



医療・介護の出張講座～もしものときのために～

医師による講話やゲーム体験を通して、より良い生き方や最終段階の過ごし方など自分らしく生きるヒントがたくさん詰まった内容です。受講者にエンディングノートを差し上げます。

■開催予定 (定員：各28名・抽選)

日時	場所	申込み
12月16日(金) 午後1時～3時	栗原公民館	11月30日(水)まで
1月11日(水) 午後1時～3時	野火止公民館	12月1日(水)午前10時～13日(火)
1月26日(木) 午後1時～3時	北野ふれあいの家	1月4日(水)午前10時～13日(金)

※申込みは電話で介護保険課へ

※定員に満たない場合は、申込受付期間後に先着で受付

「最期まで自分らしく生きる ～大切な人のために～」

堀ノ内病院 居宅介護支援事業所 あおぞら ケアマネジャー 三部 理江さん

私たちは、日ごろから利用者の話を聞き、どうすればその人らしい生活が続けることができるのかを一緒に考え、医療や介護サービスにつなげています。支援の中で、利用者やご家族からたくさんの大切なことを教えていただいています。

以前担当していた一人暮らしの90代の女性Aさんは、大好きな歌を私たち支援者にもよく披露してくださる明るい方で、近くに住む息子さんと母親のAさんが手をつないで歩く姿が印象的でした。

ある日、自宅で転んで入院となり、そのまま病院で寝たきりになってしまいました。自分で動くこともできず、話しかけてもうなずく程度で、周囲の人に気持ちを伝えることはもうできません。食事摂れず、病院から胃に穴をあけて栄養を直接注入する「胃ろう」を勧められました。息子さんは、以前Aさんから「胃ろうは絶対したくない。私がもし食べられなくなったとしても、胃ろうはせず、できるだけ家で過ごしたい」と聞いていました。そのため、息子さんは胃ろうを断ったところ、主治医からは、血管か鼻に入れる管から栄養点滴を入れる治療があるが、在宅では難しいため、療養型の病院への転院を勧められました。息子さんは、Aさんを自宅に連れて帰りたと思っていましたが、「栄養の注入ができなければ死んでしまう。家に連れて帰ることは、自分が母を殺してしまうことになるのでは。母はもっと生きたいと思っているかもしれない。また、母には少しでも長く生きていてほしい。でも、病院で管から栄養を入れながら生きていくことが、母の本当の望みなのだろうか」と悩んでいました。

私たち支援者は息子さんに寄り合いながら、以前Aさんは、私たち支援者との何気ない会話の中で「辛い治療は望まず、安らかに、穏やかに、最期の時を過ごしたい」と話していたことを息子さんに伝えました。「胃ろうはしない」との言葉。「食べられなくなったら、医療的な措置はせずに、自宅で穏やかに過ごしたい」という意味だったと信じた息子さんは、自宅に連れて帰ることに決めました。

最期の時を迎えたAさんのそばで、息子さんは私たちに「この安らかな顔を見ていたら、母が逝くところはそう悪いところではないんだろうと思うことができた。僕もいつか母のように最期の時を迎えたい。そのときはよろしく頼むよ」とおっしゃいました。

人生の最期をどこでどのように迎えたいと思っているのか自分の思いを伝えておくことは、自分のためであるとともに、残される大切なご家族が様々な選択を迫られたとき少しでも迷わず苦しなくて済むようにしてあげるためでもあると、私はお2人に教えていただきました。

人生の最期の時が、いつ、どんな形で訪れるのか。それは誰にも分かりません。だからこそ、今のうちから「その時」についてご家族で話し合っておくことが、最期まで自分らしく生きるために必要な準備なのかもしれません。

